

2024年1月29日

上場会社名 興研株式会社  
代表者 代表取締役社長 村川 勉  
(コード番号 7963 東証スタンダード)  
問合せ先 広報・IR室長 佐藤 巖  
(TEL 03-5276-1932)

KOACH 事業の海外展開への第一歩を踏み出す

## オープンクリーンシステム「KOACH」の スタンフォード大学 半導体研究所での 展示設置・活用が決定

当社KOACH事業の海外展開の第一歩として、スタンフォード大学 半導体研究所におけるオープンクリーンシステム「KOACH」の展示設置並びに活用が決定いたしましたので、その内容について下記の通りお知らせいたします。

### 記

#### 1. これまでの事業展開について

オープンクリーンシステム「KOACH」は、クリーンデバイスとしてあまりにも革新的イノベーションであったため、発売当初はカタログ、映像等を使った直接営業では理解されることがほとんどなく、実機を見ていただいた方のみ信じて話を聞いてもらえるというのが実状でした。そうしたことから当社では、まずは実機を数多くの方々に見ていただくため展示会への出展、国内6か所<sup>※1</sup>のショールームの活用及びリモート営業(実機を使ったライブ中継によるオンライン説明会)を1件1件着実に実践してまいりました。そして昨年は、TSMC(台湾積体回路製造)の日本進出決定以降、半導体関連企業の進出・投資が続く熊本県へのショールーム新設や半導体デバイスの研究・学生教育を目的とした熊本大学・半導体分野教育・研究施設への大型機種「フローコーチ」の納入を行うなど、「KOACH」の認知活動をさらに加速させました。

それらの結果、ようやく国内の半導体関係者の約4割<sup>※2</sup>の方にまで「KOACH」の認知を進めることができております。

10年の歳月をかけたことにより半導体分野へのより強力な普及体制が整い、国内での事業拡大に確信が持てる段階に至りました。

※1 熊本ショールームは2023年9月1日に開設

※2 2023年12月に開催された展示会「SEMICON Japan 2023」における当社アンケート調査データ

## 2. 海外展開を開始

前述の通り国内での「KOACH」事業における問題点の洗い出しが終わりその解決策もほぼ見出せたことから、国内オンリーで進めてきた事業を徐々に海外に向けて拡大することとし、その第一歩となる拠点をイノベーション大国であり半導体開発の復権を狙う米国に決めました。

こうした計画の最初的手段として、半導体分野に影響力の大きい大学のオープンラボ<sup>※3</sup>への「KOACH」の実機設置を目指しアプローチを開始しました。その結果、今回スタンフォード大学 半導体研究所への展示設置・活用が決定しました。同研究所はオープンラボであり、大学内の研究者はもとより他大学、外部企業に対しても施設が開放され、自由に施設内の設備・機器が使用できるため、今後「KOACH」は、全米を中心に様々な研究者に実験・研究用として活用されることとなります。

今回の設置は、単なる展示だけではなく実際に使用されること、加えて同研究所は共同研究の場ともなり得ることから、大きな反響を得られるものと期待しております。

※3 多種多様な分野の学生・研究者が集まり、研究者同士の交流や共同研究を促しイノベーションを生み出すことを目的に運営される方式の研究施設です。2003年のスタンフォード大学が導入した以降、欧米の大学の間で普及しました。日本では2010年に京都大学が同方式でiPS細胞研究所を新設し、国内でも複数の大学で導入されています。

### 【スタンフォード大学について】

各種世界大学ランキングでは常に最上位に位置する教育機関。これまで80人以上のノーベル賞受賞者を輩出するなど、全世界屈指のエリート名門校と呼ばれています。

カリフォルニア州にあり、地理的にも歴史的にもApple、Google (Alphabet)、Facebook (Meta)、AdobeなどIT企業の一大拠点であるシリコンバレーの中心に位置しています。

同大学の工学部は情報・コンピュータ分野では世界最高峰の一つといわれており、企業との共同研究も盛んで、半導体分野に関しては「マイクロエレクトロニクス・コモンズ<sup>※4</sup>」のイノベーション・ハブに指定されています。この半導体研究ハブの中心的役割を果たすのが同大学の半導体研究所「スタンフォード・ナノファブリケーション・ファシリティ<sup>※5</sup>」です。



写真：スタンフォード・ナノファブリケーション・ファシリティ

※4 マイクロエレクトロニクス分野において米国が世界をリードするために、米国国防総省が8か所のイノベーション・ハブを立ち上げて半導体の研究開発を行なう取り組みです。

※5 スタンフォード大学キャンパス内にある半導体研究所は、年間約500人の米国及び世界中の学術、産業、政府機関の研究者が研究所の半導体製造設備を利用しています。

## 3. 展示設置・活用される製品

- ・スタンドタイプ（スタンドコーチ）の「KOACH C900-F」 1台
- ・卓上タイプ（テーブルコーチ）の「KOACH T500-F」 1台



KOACH C900-F

- \* 詳細はKOACH専用サイト <https://www.koken-ltd.co.jp/koach/>にてご確認ください。
- \* 同製品の清浄度をモニタリングしていただくため、0.1 $\mu$ mパーティクルカウンターも併せて展示します。



KOACH T500-F

## 4. 今後について

- ・2024年3月より展示設置・活用が始まる予定。
- ・スタンフォード大学 半導体研究所が施設内のレイアウト変更を計画していることから、テーブルコーチ、スタンドコーチに加えて大型機種であるルームタイプの「フローアーコーチ」の設置に向けた提案を既に行っており、現在ご検討いただいているところです。
- ・同大学は世界規模での産学連携を進めています。  
今回の展示設置で「KOACH」が内外の研究者の目に触れるだけでなく実際に使用される機会が格段に増えることになり、当社及び当社クリーン化技術の世界レベルでの認知・広告効果が期待できます。
- ・同大学を起点とし、海外市場における「KOACH」の拡販並びに当社認知活動に一層注力してまいります。
- ・なお、昨年12月に開催されたAGU学会（アメリカ地球物理学連合）への「KOACH」展示を実施したほか、半導体研究で著名な他大学へのアプローチも進行中です。



フローアーコーチ

### 【ご参考】

- ・導入されている主な分野  
半導体  
バイオ  
食品  
宇宙航空 ほか研究、開発、検査、製造を問わず多数
- ・導入ユーザー数  
1,500社以上
- ・国内受賞歴  
日刊工業新聞社第53回十大新製品賞「本賞」  
第6回ものづくり日本大賞「内閣総理大臣賞」  
第35回優秀省エネルギー機器表彰「日本機械工業連合会会長賞」 ほか多数

#### 《本リリースに関するお問い合わせ先》

- |                  |                  |              |
|------------------|------------------|--------------|
| ・製品に関するお問い合わせは   | 環境エンジニアリングディビジョン | 03-5276-1931 |
| ・海外展開に関するお問い合わせは | 海外ディビジョン         | 03-5276-1925 |
| ・メディア関係の方は       | 広報・IR室           | 03-5276-1932 |

以上